

武雄市図書館に行きました（I）

私たちはメンバー16名で、武雄市図書館の視察に行ってきました。

以下に、武雄市図書館を見学した方の感想を掲載します。

〇〇の皆さま貴重な情報ありがとうございます。地元武雄から少し、付加説明させていただきますので、併せてご理解ください。よろしくお願いいたします。

I. 全体の印象

- 玄関に入るやいなや、売り物やレンタルがキラキラ輝き、裏や奥に行かないと本来の図書館の本が見えなかった。

蔦屋書店とスタバが主要部分を占め、図書館の本は館の奥の部分や裏側（前の事務室など）や、増築した2階の閲覧バルコニーに収納されています。

- 天窓の飾りが目を引く明るい館内に、スタバのコーヒーの香りと TSUTAYA の販売コーナーが来館者を迎える。代官山の蔦屋書店のスタイリッシュな雰囲気を持ちこんだ図書館である。

天窓は、武雄神社の流鏝馬の的をデザインしたもの（図書館と並行して流鏝馬道がある）で、12年前に建設された当時からあり、その下に図書・地域情報検索のPCが円形に配置されていました。開館前、室内照明が点灯する前でも、天窓の自然採光で検索できるように考えられていました。

- 「何？これって本屋さん？図書館の本何処？ライブラリアン何処にいるの？」と思った。
- 木目調の自動貸出機で本を何冊も重ねて貸出しできることやスタイリッシュな自動検索機で立ちながら検索できること、そして、トイレがホテル並みできれいだった。

子どもたちは、自動貸出し検索機が面白いようです。閲覧者用・事務室用・子ども用・2階の司書休憩室用4か所にあったトイレが、現在は閲覧者用のトイレ1か所に集約されています。子ども用もその中に男女各1か所設けられていますが、子どもコーナーから遠く離れています。

- 思っていた以上に TSUTAYA に乗っ取られた・・・という印象だった。
私は、次の理由で、子どものころから図書館が好きだったが、武雄市図書館にはそのすべてが失われていた。
 - 「（貸出禁止を除き）この中にある本は、家に持って帰ってゆっくり読めるんだ！」と、図書館に足を踏み入れたとたん、とても幸せな気持ちになること。
 - お金を使うことまた、お金を使いたいと全く思うことなく、安心して過ごせること。
 - 普段着のまま、子どもを連れていても、体調が多少悪くても、静かにさえしていれば、誰にも気兼ねなく、安心して自由に本を楽しめること。
- 書物離れに、少しは歯止めがかかるのでは？と期待できる空間であった。建物中の書物の配置、書店ならではのディスプレイ、スタイリッシュな内装など魅力的だった。

前は床板や書架など木の無垢材（本物）が使われていました。今回張り替えた床材や書架は、前より質の劣る材料が使われているようです。2階閲覧バルコニーの高書架の本は、1階の蔦屋書店の装飾として圧倒的ボリュームの書籍を見せたい、と言う意図で設計されたものです。図書館側から機能的に考えられたものではないと思います。

- 今までの図書館という概念では理解できないが、図書館と書店が融合された新しい提案ではないか？

今のところ図書館自体のハード及びソフトが、前より良くなったという評価は聞えて来ていません。

- 売り物がどこまでで、借りるのはどこからなのか「柱の色で区別している」といわれたが、子どもたちは（大人でも）なかなかわかりにくいだろうと心配になった。（同意見多数）
- 広いスペースがとられた雑誌コーナーでは、流行のライフスタイルを押し付けられるような気がして、公共施設がすることなのか・・・？と気になった。
- 「ひさしを貸して母屋を取られる」ということばが、チラッと頭をよぎった。
- コーヒーの匂いやパンの匂いがして、それを食べながら飲みながらおしゃべりしている人たちがうるさかった。（平日の午前中だったので、思ったより静かだったとの意見もあった。）
- 「図書館」という名称はありながら、販売している本のディスプレイが強調されていて、図書館の本棚の魅力がなかったように感じた。

今のところ来館者が多く、書架の整理の時間が見出せない？状況が続いていると思います。

- 緑の景色が見える場所に絵本が並べられ、図書館の本が見え、外から本が借りたくなる場所に書架が並べられ、コーヒーショップや書店の本は、奥でも構わないと思った。
- 検索機の文字が小さくて、老眼鏡がいるのが不便だった。
- 「武雄市図書館」というよりは、「代官山蔦屋書店付属図書館」という感じで、税金を使わずに TSUTAYA が独自で図書館を作れば良かったのと思った。
(同じように、市に中央図書館が一つちゃんとあって、二つ目なら我慢もできるとの意見もあった。)

近隣の若者のご意見ですが、自分の町の図書館としては嫌やけど、武雄にならいいじゃん!?

- 「代官山蔦屋書店」と同じく、客?利用者のターゲット(20、30、40、50代)を絞っていると感じた。(同意見多数)税金で建てた市民みんなの図書館なのに・・・

今回、図書館に蔦屋書店などを付加するために、公費4,5億円(平成24年度)が使われ、その外に指定管理委託料が年間1,1億円(平成25年度から5年間)支払われます。

- 地域振興を勧めている市長なのに、何で地元のお店ではなくて、スターバックスコーヒーなの?と思った。

地元書店閉店、のうわさが後を絶ちません。市長が言われる”地域所得の向上”というスローガンとは矛盾していると思います。地元2書店のサポートが、私たちの新たなテーマになりました。

II. 図書館の部分

- 通路の狭さ、一部の書架が高すぎることなど、特に子育て中の人、高齢者、障がいのある人にとっては、危険も伴うほど使いづらいただろう・・・と気の毒にさえ思った。(同意見多数)
- 閉架図書をなくすことにより、20万冊の本の量が迫ってくるのに、ゾクゾクする快感を覚える、スタイリッシュな感じ、本を手にとってみると居心地のよい空間だった。

閉架をなくしたことにより、2階の高書架部分にある図書を閲覧しようとする、司書の皆さんに非常に危険な作業を強いることになり(1階からの高さは10メートルは

どにもなる、柵も無い高所での作業になります)、転落事故の危険性があることを心配しています。以前の図書館は、あまりインパクトは強くなくても、子どもたちや高齢者にやさしく、気楽に日常的に使いやすい美しい静かな図書館でした。

- 読みたい本、書棚から出したり引っ込めたり、好きな本に出会うまでの時間が大切だと思うが、とてもとても高い棚に並べられているため、小学校の子どもが手にしたい本、高齢者が手にしたい本、車椅子の方が手にしたい本、幼児が手にしたい大型絵本、みんなみんな、自分で勝手に乗ってはいけない“脚立”が要るのはおかしいと思った。かつ、取ってくれる図書館員の数が少なく、探して呼んでくるのも、子ども連れの人、子どもたち、高齢者、障がい者には大変では？・・・(同意見多数)
- 児童書のコーナーが狭く感じた。読み聞かせのスペースも狭かった。児童カウンターもスタッフ不在で、何か聞きたい事があつたらどこに行けば良いか、案内のメモが欲しい気がする。児童コーナーの近くにトイレもなく、大丈夫かな？と心配。子ども連れの利用者には、やさしい図書館とはいえない印象だった。(同意見多数)
- 2階のですりが低く、隙間が広いので子どもたちには危ない、高い書架が並び迷路のように becoming するため死角が多く、また、図書館員も少ないため、不審者が侵入した場合、非常に不安である。小学校低学年が安心して一人でいける図書館ではないなど、危機管理について問題があるのでは？(同意見多数)

2階の長い閲覧バルコニーは先が行き止まり、階段付近で火災など発生すれば逃げる方法がありません。2方向避難が確保されない公共建築は、欠陥ではないかとの声もあります。2階に書架を大量に置いたため、車椅子など生活弱者もエレベーターを日常的に使わなければなりません。それにしてもエレベーター周りが狭すぎます。勾配床はさらにその困難さが増すことを心配しています。

III. その他の意見

- デジタル化の時代、書物の重要性、そして図書館に関心のなかった人たちへのアプローチになるのでは？と期待する。

そのようになれば良いと思います。それよりも子どもたちの図書館環境が壊滅的な状況になったことが、子どもたちの読書離れにつながり、長期的に市民の読書離れ・図書館離れを来すのではないかと心配しています。

- この図書館が全国的に注目を集め、あちこちからの視察が続いている状態をみると、今後、こんなタイプの図書館が増えていく気がする。モデルケースとしていろんな問題をクリアしながら、より良い

形で、市民に愛される図書館になってほしいと思う。

意見を言えば、“他所の図書館に行け”とされています。CCCのオーナーは、特別な人たちに来ていただければ良い、とコメントしています。今のところ、視察が続いているのはマスコミによる、報道効果によるものだと思います。最終的には私たちの市民図書館です。そのミッションを自ら探し学習しながら、自立的な図書館活動を継続していきます。

- 館長の図書館や本、子どもたちへの思いはよく伝わった。その思いに期待している。

前の館長（今の館長）さんや司書さんの図書館にかける思いはよく分かります。問題は、指定管理者になった場合、その思いがどれだけ現場で実現できるかだと思います。佐賀市での小郡図書館長の講話は、指定管理者に移行すれば行政から政策的なことは出来なくなる可能性が強い、とのことでした。次代の子どもたちのために、協働の道筋を考えていきたいと思っています。

- 平成・・・年に、私たち〇〇市立図書館が現在の形で建設された事は、日頃、当たり前だと思っていたが、「〇〇市立図書館の良さを再確認」でき、感謝の気持ちを抱かせてくれた。（同意見多数）
- 経済優先の経営母体の書店と、市民に生きる力を与え、思想信条を守る図書館とは、初めから相依れない場所に立っているのでは？理念の上からも、設計の段階からも。
- 物珍しさで来ている人がなくなった時、どうなっているのか、2、3年後に来てみたい。（ず～っと観察していきたいという意見もあった。）

他の図書館の事例からも2～3年がいいところ、その頃はマスコミも報道しなくなります。と、いうご意見をいただいています。本当の図書館づくりは、それから始まるのかもしれない。そのためにも私たちの学習活動を強化し継続していきたいと思っています。

- 日頃、図書館に来ていなかった人たち、TSUTAYAにレンタルビデオや雑誌を買いに来た人たち、スタバにコーヒーを飲みに来た人たちを、どうやって図書館の部分に呼び込むか、継続的に図書館を利用させるのか、簡単にはいかないと思う。（来館者の増加率に比べて、本の貸出し率は、上がっていない）
- 代官山蔦屋書店ではコンシェルジュと呼んでもいいが、図書館ではやはり「司書」ではないのか？（同意見多数）
- マスコミの報道ではわからなかった危機管理の問題など、実際に見学してみてわかったことが多か

った。

- Tポイントの導入が、一部の企業への利益供与にならないか、よく検討して欲しい。

ポイントを事業化している企業が運営する図書館、その顧客情報（貸出履歴など）が使われない、ということは普通では考えにくいと思います。市民の情報リテラシーに任せる、そのようなことで市民の安心・安全を守る公共の責任は果たせない、と考えています。

- おしゃれでスタイリッシュな図書館は、これから迎える高齢化社会、障がい者に優しい社会、少子化対策の子育て支援、また、東日本大震災後、想定外の危機管理が問題になっている現在、社会の流れに逆行するものであると感じた。

確かにいろいろな図書館があって良いと思います。しかし、「民主主義の砦」としての公立図書館の役割・・・すべての住民、赤ちゃんからお年寄りまでの知る権利を保障し、生活を豊かにするのが図書館ではないでしょうか？マスコミに流されることなく、自分の目で見、自分の頭で考えたいものです。

（文責 ○○・○○）

みなさま

図書館ネットワークを大切に、今後のお互いの意見交換・連携をお願いする中で、失礼とは思いましたが、率直な意見を付加させていただきました。7月、2年目に入った私たちの学習会ですが、いろいろな課題を探しながら学習機会を創出していきます。今後ともよろしく願いいたします。ありがとうございました。

2013年6月 武雄市図書館・歴史資料館を学習する市民の会
